

きのくに自主防災

第21号(平成29年11月号)

<発行元>

和歌山県自主防災組織情報連絡会事務局(和歌山県庁防災企画課内)

避難について考える ～避難対策ワークショップ～

大規模災害から生命を守るためには、住民一人一人が「いかに避難するか」について、主体的に考え、行動することが大切です。

和歌山県では、自主防災組織や地域の団体が取り組む避難対策ワークショップの進め方、注意点等を取りまとめた「避難対策ワークショップ運営の手引き」を平成29年3月に作成しました。地域でワークショップを開催し、避難対策を考えてみましょう。

避難対策ワークショップとは・・・

ワークショップとは、講師の話聞くだけの一般的な講演会とは異なり、参加者自身が討論に加わり、自由に意見を出し合い、互いの考えを尊重しながら意見や提案をまとめていく形式のグループ学習です。

避難対策ワークショップでは、一人一人が、どこに避難すべきか、どの経路を通して避難すべきか等を話し合います。また、避難行動要支援者(自主防災組織等の支援を受けて避難する必要がある方)をどのように地域で支えていくのかといったことを検討します。

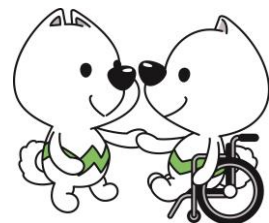


グループワーク

避難場所や避難経路を地図に記入

ワークショップの進め方

- ① まず、災害の基礎知識を学び、避難に必要な情報を理解しましょう。専門的な知識が必要となるため、外部講師や市町村防災担当課室に協力を依頼することも考えられます。
- ② 次に、地域の危険性を知るため、土砂災害等が発生しそうな箇所等をハザードマップ等で確認します。併せて、狭い道や倒壊の危険性のあるブロック塀等、避難の支障となる箇所も確認しましょう。
- ③ 「一人一人の避難計画」を作成しましょう。
- ④ 避難行動要支援者を考慮した「地域の避難計画」を作成しましょう。



ワークショップを通じて、地域の防災力(自助・共助)を高め、災害による犠牲者ゼロを目指しましょう!

避難対策ワークショップ運営の手引きや資料等は和歌山県のホームページからダウンロードできます。

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/011400/workshop.html>

避難対策ワークショップ実施のお問い合わせは、お住まいの市町村防災担当課室へ

平成29年度和歌山県防災啓発研修を開催しました！

和歌山県防災啓発研修とは？



和歌山県防災啓発研修は、防災意識の向上や防災知識の普及を目的として、平成16年度から毎年開催しています。

今年度は、8月20日（日）に、紀美野町文化センター大ホールで開催しました。講師には、名古屋大学減災連携研究センター長・教授 福和伸夫氏をお招きし、近年の地震災害の状況を踏まえ、住宅の耐震や家具の固定等による被害軽減策の必要性について講演いただきました。

また、「出張！減災教室」の講演も実施し、家具の転倒防止方法についても学びました。（「出張！減災教室」については、8ページをご参照ください。）

会場には、紀美野町をはじめ、県内の自主防災組織の皆様や紀の国防災人づくり塾修了者の皆様など、約380人の方々にお集まりいただきました。

ここでは、当日の講演内容の一部を紹介します。



会場いっぱいの来場者

みなさん熱心に聴いていただきました

「震災に備え過去に学び耐震化を進める」

名古屋大学減災連携研究センター長・教授 福和 伸夫氏



過去の震災に学ぶ

日本は、昔から多くの震災を経験してきました。日本三大随筆の一つである『方丈記』や百人一首の和歌にも、過去の震災にまつわる記載が見られます。

今から約1,150年前に発生した貞観地震（注）の津波の状況を、2つの百人一首の和歌から読み取ることができます。

「契りきな かたみに袖を しぼりつつ 末の松山 波越さじとは」（清原元輔）

「わが袖は 潮干に見えぬ 沖の石の 人こそ知らね 乾く間もなし」（二条院讃岐）

清原元輔の和歌では、宮城県にある小山「末の松山」は、「波越さじ」と詠われているため、津波が来なかったことがわかります。また、二条院讃岐の和歌では、宮城県の池「沖の石」が「乾く間もなし」であったと詠われています。

実際に、「末の松山」と「沖の石」を訪れたところ、東日本大震災では「沖の石」の辺りまで津波が来て、「末の松山」は和歌のとおり津波が来ていませんでした。

このように、過去の出来事は私たちにいろいろなメッセージを伝えてくれます。科学は分かったことだけを伝え、分からないことには触れません。しかし、過去に起きたことは「今後起こるかもしれない」と考え、備えるべきです。

(その他にも、熊本地震等から学ぶ住宅耐震化等の教訓についてお話しいただきました。)

※(注) 貞観地震：869年に三陸沖を震源として発生した巨大地震。地震に伴って発生した津波も大規模であり、東日本大震災の津波の規模の大きさに匹敵すると言われている。

耐震化の重要性

全く同じ建物でも、地盤によって建物の安全性は異なります。揺れやすい建物を揺れやすい地盤に建ててしまうと、とても小さな揺れで建物は壊れてしまいます。また、全く同じ建物でも、建物の形で、安全性は異なります。



最後には、約束をしました！

過去の震災に学び、住宅等の耐震化の必要性のお話をいただいた後、来場者の方々と次の約束をしました。

- 自宅の家具転倒防止対策状況を確認する。
対策ができていないようであれば、今週中に対策を行う。
そして、対策を行うまでは、その場所で寝ず、安全な場所で寝る。
- 水や食べ物等を備蓄する。
- お住まいの市役所や町村役場において、耐震診断を申し込み、自宅が安全であるか確認する。
安全でなければ、補助制度等を利用して改善する。

最後に、「約束を守っていただける方は、手を挙げてください。」と呼びかけたところ、ほとんどの来場者の方々から手が挙がりました。

当日会場に来られなかった方々も、家具転倒防止対策を行い、水や食べ物の備蓄をしておきましょう！

自分の命を自分で守れるよう、ご近所の皆さんにもお声がけをお願いします。

「出張！減災教室」

株式会社 貴志(受託事業者)

家具の固定をする場合は、壁へのL字金具による取り付けや、天井への転倒防止ポール等による取り付けが重要です。また、家電製品の転倒防止には、チェーンや粘着ジェルシートを使用します。さらに、食器棚の収納物の飛び出しを防止するためには、扉への開閉防止器具取り付けや、棚への滑り止めシートの貼付が必要です。

※家具固定の方法は、次の県ホームページ掲載の「家具等の転倒防止対策～地震から命を守るために～」のリーフレット等を参照してください。

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/O11400/bousai/pamph/pamphlet.html>

毎年6月1日は「自主防災組織の活動の日」です！

災害発生時には、自主防災組織による「共助」が災害から命を守る重要な役割を果たします。

県では、自主防災組織による「共助」の活動を促進するため、昨年度から毎年6月1日を「自主防災組織の活動の日」、活動日の前後1週間（5月26日～6月8日）を集中活動期間と決めました。

今年度は、20市町42団体（うち集中活動期間中は11市町14団体）が活動を行いました！

6月4日（日）には、那智勝浦町 市野々区・八反田区で、避難準備・高齢者等避難開始、その後、避難勧告が発令された想定で避難訓練が実施されました。訓練後には学習会も開かれました。



避難所に避難



避難者の受け付け
（避難者名簿の作成）

活動例

防災学習

家具固定の
講習会

AED 講習

「出張！減災教室」
講座
（地震体験等）

共助を中心
とした訓練

避難訓練

炊き出し訓練

避難所の開設・
運営訓練

など

一人一人が「自分たちの地域は自分で守る」という意識を持ち、そして、地域住民が協力・連携して、防災活動を行いましょう！また、自主防災組織を結成していない近隣地域の方々には、皆さんからのお声かけをお願いします。



訓練、研修等のお問い合わせは、お住まいの市町村防災担当課室へ！

今年度も避難所運営リーダー養成講座を実施しています！

避難所運営リーダー養成講座とは

大規模災害時の避難所運営を円滑にするため、市町村の避難所派遣職員及び自主防災組織の会長など避難所運営のリーダーを担っていただく方を対象に、避難所運営ゲーム（HUG）や講義を実施しています。

避難所運営ゲーム（HUG）とは

避難所運営者の立場になって、次々と避難してくる避難者を避難所となる体育館や教室に適切に誘導できるか、また今後起こる事態を想定しながら適切に避難所運営できるかを体験するゲーム（避難所運営版図上訓練）です。

今年度はこれまで次の市町で開催しました！

- 8月 6日 美浜町
- 8月27日 那智勝浦町
- 9月 3日 日高川町
- 9月10日 みなべ町
- 9月24日 紀の川市

他、橋本市、田辺市、紀美野町、九度山町、高野町、串本町でも開催を予定しています。



みなべ町会場 9月10日

紀の川市（9月24日）で開催された様子を紹介します！

9月24日には、紀の川市で「避難所運営リーダー養成講座」が開催され、紀の川市防災リーダー会や紀の川市消防団女性分団の方々40名が参加しました。

避難所運営ゲーム（HUG）では、避難所となる体育館での通路確保や要配慮者の受け入れ等について、グループ内で活発に話し合われました。その後、避難所運営における課題や課題に対する対応策について議論し、「トイレが使用不可となった場合はどうするか」や「ペットの受け入れをどのようにするか」等の課題に対する対応策等の発表が行われました。

参加者の声

今回の講座を踏まえて、災害時には地域で協力して避難所を運営していきたいと思えます。



避難所運営ゲーム（HUG）



グループ発表

平成28年度和歌山県自主防災組織情報連絡会情報交流会で

発表された各自主防災組織の活動事例を紹介します！

和歌山県自主防災組織情報連絡会 情報交流会とは？

南海トラフ地震・津波や風水害・土砂災害等の大規模災害に備え、地域の防災活動をさらに活発にしていくため、和歌山県自主防災組織情報連絡会では、平成17年度から「情報交流会」を開催しています。情報交流会では、県内の自主防災組織の活動情報を共有し、地域の防災活動に役立てることを目的に、先進的な取り組みを行っている自主防災組織代表者による事例発表やパネルディスカッションなどを行っています。

平成28年度の情報交流会は、平成29年2月5日（日）に橋本市産業文化会館で開催し、自主防災組織3団体から事例発表をしていただきました。

- ・橋本市 西畑区自主防災会
- ・九度山町 九度山東地区自主防災会
- ・岩出市 紀泉台地区自主防災会

また、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 主任研究員 本塚智貴氏がコーディネーターとなり、パネルディスカッションを行いました。ここでは、当日の活動事例発表の一部を紹介します。

平成29年度和歌山県自主防災組織情報連絡会情報交流会は、御坊市で開催予定です。詳細が決まり次第、ホームページ等でお知らせします。

○活動事例

橋本市 西畑区自主防災会 (会長 中西 康師 氏)

西畑区自主防災会の概要

西畑区自主防災会は、清水小学校区に5つある自主防災会の1つです。清水小学校区には、他に清水区、賢堂区、向副区、横座区の自主防災会があり、住民はあわせて約2,200人、世帯数は約900世帯です。防災力向上のため、清水小学校や消防団、橋本市と共に防災訓練を行っています。

防災訓練の概要

大規模災害を想定し、地域住民と学校が連携し災害時の対応について考えること、地域と学校が交流を深めながら防災意識を高めることや地域社会における次世代防災リーダーの育成をねらいとして防災訓練は行われました。

訓練では、橋本市や消防団の講話の他、児童による防災学習の発表もありました。また、児童は、防災グッズ作成やアルファ化米の試食、搬送訓練等を体験しました。さらに、地域や保護者の方は、消防署員より心肺蘇生法について指導を受けました。

防災訓練の成果と課題

児童と大人が共に参加することで、互いに気づかされることが多くありました。一方で、地域の若者がより多く参加してくれるようにすることが課題と考えています。

九度山町 九度山東地区自主防災会 (本部情報班 木澤 豊 氏)

九度山東地区自主防災会の概要

九度山東地区自主防災会は、住民約 280 人、世帯数約 90 世帯の九度山東地区を母体とし、平成 25 年に設立しました。

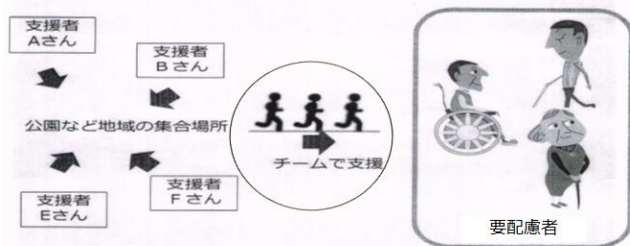
その後、定期的に防災訓練を実施し、毎年 1 月には、「防災世帯台帳」を作成し、要配慮者や有資格者（医師や看護師等）を調査しています。

「たすけあい隊」の編成

大規模災害が発生したとしても、地区住民でけが人を 1 人も出さずに災害を乗り切ること为目标に、平成 28 年度に防災組織の見直しを行い、「たすけあい隊」を編成しました。

「たすけあい隊」は安否確認と要配慮者の避難支援を活動目的とし、災害時には班員が公園など地域の集合場所に集まり、チームで要配慮者を支援します。

参集したメンバーで手分けして要配慮者を支援する「チームディフェンス」方式



※当日の発表資料より引用

今後の取り組み

現在、平成 28 年度に行った避難対策ワークショップでの作成手順を踏まえて、地区防災マップの作成に取り組んでいます。また、今後の目標は、地区全体で継続的に活動できるように仕組みを改善していくことだと考えています。

岩出市 紀泉台地区自主防災会 (委員長 水落 典良 氏)

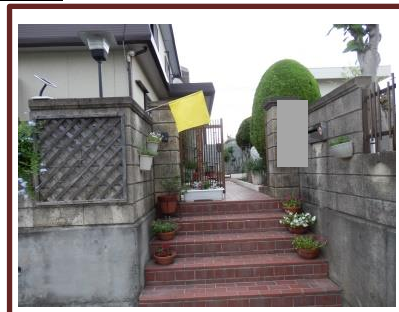
紀泉台地区自主防災会の概要

紀泉台地区自主防災会は、住民約 1,700 人、世帯数約 660 世帯の紀泉台地区を母体とし、設立しています。

防災講座や消防訓練の他、「ビンゴゲームでまち歩き」の実施や、夏祭りでの防災会体験コーナー設置等、楽しく工夫が凝らされた防災まちづくりを行っています。

黄色いハンカチ作戦

工夫が凝らされた防災会活動の一つが、「黄色いハンカチ作戦」で



す。これは、震度 5 強以上の地震を想定した災害時安否確認訓練であり、在宅の家族が全員無事であれば、黄色いハンカチ(布)を玄関先等の道路から見やすい場所に掲げます。そして、各班長は安否確認表を用いて黄色いハンカチ(布)の有無を確認し、災害対策本部へ報告します。黄色いハンカチ(布)を掲げることが、近隣の方に「うちは大丈夫!」と知らせる目印となるのです。4 年目の平成 28 年度には、トラックに備えつけたスピーカーでの広報等により、黄色いハンカチ(布)の掲示率が 86.1%となりました。

最後に

平常時のご近所付き合いが命を守るため、小さなことであっても活動を継続することが大切であり、近い将来起こるであろう大規模災害に備えることが防災会の使命だと考えています。

「出張！減災教室」 地域で防災を学ぼう

県では、地域の自主防災組織や県内小・中・高等学校などを対象に体験型の「出張！減災教室」を開催しています。自主防災組織・自治会の集会や学校での防災教育等にぜひご活用ください。

【対象】

- (1) 自主防災組織、自治会などの地域団体等
- (2) 県内の小・中・高等学校等

【実施期間及び日時】

- (1) 実施期間：平成30年3月31日まで（年末・年始は除く）
- (2) 実施日時：原則9時から17時まで

※講師の派遣や、資料配布等の費用は県が負担します。ただし、会場の手配やそれに係る費用については、申込者の負担になりますので、ご了承ください。

実施メニュー

- 「地震体験車 ごりよう君」による地震体験
- 地震・津波についての基礎講座
- 家具固定に関する講座・実習
- 避難所運営ゲーム等を用いた防災学習
- 模造模型を用いた住宅の耐震化講座



「地震体験車 ごりよう君」による地震体験の様子

【お申込み先】

和歌山県総務部危機管理局 危機管理・消防課 TEL：073-441-2260

◆ 防災わかやまメール配信サービス

県内の気象情報や地震・津波の警報・注意報など、さまざまな情報をパソコン、携帯電話などに電子メールでお知らせします。

防災わかやまメール配信サービス登録用QRコードからぜひご登録ください。



防災わかやまメール配信
サービス登録用QRコード

regist@bousai.pref.wakayama.lg.jp

上記アドレスに空メールを送信してください。



「きのくに自主防災」に掲載する防災活動事例を募集しています

「きのくに自主防災」では、地域で防災活動に取り組まれている方々の活動事例を募集しています。自主防災組織の訓練、普段の活動の取り組みや、学校と連携した防災活動など特色ある活動事例などをご紹介いただける場合は、ご連絡をお願いします。

※紙面の都合によりご紹介いただいたものすべてを掲載できない場合もございますので、予めご了承ください。

【お問い合わせ先】 和歌山県総務部危機管理局防災企画課 TEL：073-441-2271 FAX：073-422-7652